



平成31年度 施政方針

第420回 市議会定例会



▼「都市農業・漁業の振興」
大山田いも栽培農地の適切な保全を図り、また、浦添・宜野湾漁業協同組合へ燃料費の補填支援を実施します。

基本目標5
安全・快適で、持続的発展が可能なまち

▼「防災および救急・消防体制の強化」
地震や津波に対する避難訓練の実施、備蓄食糧および防災資機材の購入のほか、防災行政無線のデジタル化整備工事に取り組みます。

▼「防犯対策の強化」
交通安全・防犯対策の強化
交通事故のない住みよいまちを目指し、横断歩道等の交通安全施設の充実を努めます。また、犯罪発生を抑止および市民の安全・安心の確保のため、地域安全活動を推進します。

▼「環境保全と循環型社会の形成」
更なるごみの減量化・資源化を推進

▼「公園・緑地および墓園等の整備」
野嵩第一公園および比屋良川公園の整備を進め、海浜公園については、「海浜公園施設等再編整備基本構想・基本計画」に基づき、市民のスポーツ活動や、文化活動の一層の充実を図れる実設計を進めます。

▼「墓地問題への対応」
墓園等の整備については、キャンブ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地における公営墓地整備事業について、検討を進めます。

基本目標6
平和をつなぎ、未来へ発展するまち

▼「基地問題への対応」
まちのご真ん中にある普天間飛行場は、戦後70年以上もの長期間、航空機事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を強い続けていることに加え、効率的なまちづくりを進める上での阻害要因となっています。

平成29年12月に発生した、普天間第二小学校への米軍ヘリ「窓」落下事故をはじめ、頻発する事故の度に、市街地に囲まれた普天間飛行場が、世界一危険であり、一刻も早い返還の必要性が示されるものの、政府と沖縄県は対立を続け、返還合意の原点である『危険性除去』と『基地負担軽減』は置き去りにされたまま、解決に向けた道筋は依然として不透明な状況が続いてい

▼「公善・環境衛生対策の推進」
市民が健康で快適に暮らせる生活環境の確保のため、倉浜衛生施設組合のし尿処理施設整備事業計画に取り組みます。

▼「快適な生活環境の整備」
市民や事業者等と協働し、宜野湾らしい景観資源を大切に守り育て、豊かで潤いある風景づくり推進事業を実施し、キャンブ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地については、「景観形成重点地区」の指定に向け取り組みます。

健全な市街地の整備と生活環境の改善に向け、宇地泊第二土地区画整理事業および佐真下第二土地区画整理事業に取り組み、新たに西普天間住宅地区土地区画整理事業も実施します。

▼「交通ネットワークの整備」
市道宜野湾11号の平成31年度中の供用開始を目指し、中原進入路については、市道中原33号として市道認定し、整備を行い、キャンブ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地と国道58号をつなぐアクセス道路については、市道喜友名23号として市道認定し、道路整備を進めます。

市道我如古21号、嘉数1号および伊佐1号の整備事業ならびに都市計画道路の3・4・71号普天間線道路整備事業についても継続実施し、供用中の道路や橋りょうについては、快適な道路環境の持続的な提供のため、橋りょうの老朽化対策や、大山7丁目地内の舗装改良など、道路の計画的な維持修繕に努めます。

▼「上・下水道の整備」
市民サービスの向上を図るため、平成30年4月に水道局と建設部下水道課

▼「基地跡地利用の推進」
普天間飛行場の跡地利用について、地権者の合意形成活動とあわせて各分野の計画内容の具体化に向けた取り組みを進め、「全体計画の中間取りまとめ」における配置方針図の更新を行い、跡地利用計画の策定に向けた実現性の検証などに取り組みます。

また、『普天間未来基金』については、企業や全国の方々から同基金の趣

▼「平和行政の推進」
沖繩戦から70年余が経過し、沖繩戦の風化が危惧されており、平成31年度も平和祈念事業および被爆地長崎県への平和学習派遣事業等を実施し、市民の皆様、特に次世代を担う若者の平和に対する意識の高揚を図ります。

(むすびに)
平成31年度も、活気にあふれ、豊かで住みよいまちづくりを目指し、すべての市民がさらに笑顔で幸せを感じ、宜野湾に住んでよかった『宜野湾がいちばん!』だと実感していただけるよう、全職員一丸となって、市民の皆様および市議会と連携して市政運営に全力を尽くしていく所存であります。以上、施政方針といたします。

平成31年2月26日
宜野湾市長 松川 正則

▼「上・下水道の整備」
市民サービスの向上を図るため、平成30年4月に水道局と建設部下水道課

▼「上・下水道の整備」
市民サービスの向上を図るため、平成30年4月に水道局と建設部下水道課

